2016 年 3 月発行

日本在宅ケア学会 Newsletter

No.9

日本在宅ケア学会事務センター
〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
TEL:03-5206-7431
FAX:03-5206-7757

日本在宅ケア学会 新体制のご紹介

—平成 27 ～ 30 年度理事・監事一覧および委員会名簿—

日本在宅ケア学会は，平成 27 年 4 月 1 日より，新体制としてスタートいたしました．理事・監事をご紹介させていただきます．ご支援のほどよろしくお願い申し上げます．

◆理事長◆

亀井　智子
聖路加国際大学看護学部

総会でもご承認をいただきましたように，2016 年 5 月を目途に，日本在宅ケア学会は一般社団法人化することが決議されました．会員数が定常的に 1,000 名を超え，事業基盤も安定し，実践・研究助成や生涯教育などの事業を行えるようになり，学会としての社会的責任を明確化するのによい時期ではないかと思います．今後は定款に基づいて学会の活動が行われることになり，理事の任期や総会のもち方なども変わりますが，引き続き会員のみなさまには，活発な学会活動へのご参加をお願いいたします．

◆副理事長◆

辻　彼南雄
水道橋東口クリニック

2016 年は当学会の一般社団法人への移行という重大な事業も控えており，亀井理事長をしっかりサポートしてまいりたいと思います．また，7 月 16，17 日の第 21 回日本在宅ケア学会学術集会長も拝命しています．今回は第 18 回日本在宅医学会大会（平原佐斗司大会長）との合同大会となります．そのため，通常の学術集会よりも数倍の来場者規模になることが予想されています．東京ビッグサイトで交通の便もよい場所であり，参加者はすべてのセッションに参加可能です．多くの学会員のご参加をお待ちしています．

◆理事◆

岡田　進一
大阪市立大学大学院生活科学研究科

このたび，日本在宅ケア学会理事を拝命いたしました大阪市立大学大学院生活科学研究科の岡田進一と申します．本学会では，実践・研究助成委員会委員長および政策提言検討委員会委員をさせていただくことになりました．今後ともよろしくお願い申し上げます．

加瀬　裕子
早稲田大学人間科学学術院

学会員のお役に立つ講演会やワークショップを計画し，学会外のみなさまを含めて，学術や経験の交流を図っていきたいと考えております．2016年度は，「食べることの支援」がテーマです．多職種で考える「食」の支援，ご期待ください．

北川　公子
共立女子大学看護学部

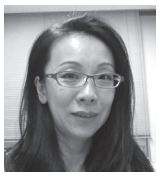
日本看護系学会協議会担当のほか，倫理委員会，編集委員会，生涯教育委員会の一員として活動して参ります．高齢者の孤立死，虐待，経済的困窮，軽犯罪の増加など，超高齢社会のなかで起きている困難な状況は，どれひとつをとっても単一の職種や専門性によって解決できるものではありません．本学会が，そのような課題に向け会員のみなさまが情報交換し，連携する仲間に出会える場になるよう，微力ながら役割を果たしたいと思います．

黒田　研二
関西大学人間健康学部

この3年間に地域支援事業の拡大再編が市町村において実施されます．また厚労省プロジェクトチームが打ちだした「全世代・全対象型地域包括支援」構築も課題です．これらを視野にいれた研究を進めていけたらと期待するものです．

河野あゆみ
大阪市立大学大学院看護学研究科

前期に引き続き，広報委員会委員長を担当しております．本学会20周年に先立ち，広報委員会では会員のみなさまよりアイデアを募り，学会のロゴマークが完成しました．生活の場で暮らす療養者に暖かく手を差し伸べる在宅ケアを目指し，学会活動を続けていきたいと思っています．



小西かおる
大阪大学大学院医学系研究科

在宅ケアの動向に関する情報を発信し，多様化する社会のニーズに対応する実践でのさまざまな試みの交流ができ，在宅ケアに関するエビデンスの蓄積につながる学会誌でありたいと考えています．みなさまの投稿をお待ちしています．

佐藤美穂子
公益財団法人日本訪問看護財団

2015年6月に厚生労働省が公表した「2035年，日本は健康先進国へ」でも，「キュア中心からケア中心へのパラダイムシフト」が挙げられています．当委員会は1人ひとりが主役となれる在宅ケアについて政策提言を試みます．

下田　信明
杏林大学保健学部

現在，論文賞選考委員会委員長および学会活動推進委員会，編集委員会の委員として活動しております．学会活動推進委員会においては新しい試みも検討しています．みなさまからのご意見・ご指導をいただければと存じます．

白澤　政和
桜美林大学大学院老年学研究科

今回，社会福祉系学会連合の担当をさせていただくことになりました．本学会は学際学会であるにもかかわらず，社会福祉や介護福祉に関する福祉系のメンバーが少なく，バランスを欠いています．本学会からの委員として，学会連合に積極的にかかわることで，会員募集を行い，バランスの解消に努めたいと思います．

住居　広士
県立広島大学大学院保健福祉学専攻

日本在宅ケア学会は地域包括ケアの基軸になる在宅ケアの確立へと展開していきます．老人保健法，ゴールドプラン，介護保険制度と在宅ケアの社会資源の構築が図られています．在宅ケアに向かう人材養成と専門性の向上を求め，現場から学術まで先導と研究教育に期待するものです．

瀧澤　利行
茨城大学教育学部

今期の倫理委員会の活動として，在宅ケア研究の充実に向けて，主に実践者を対象とした在宅ケア研究に向けた研究倫理および研究手法のガイドブックを編集委員会と共同で企画・編集していくことが当面の課題となっています．在宅ケア研究の現状と将来を念頭においた実践的な視点からのガイドブックの編集を目指しています．また，学術大会などでの研究倫理に関する講演なども逐次企画していく予定です．

長江　弘子
千葉大学大学院看護学研究科

本年度は看保連，学会活動推進委員会，編集委員会，政策提言委員会に所属し活動します．とくに看保連は学会会員であるだけなく，看保連理事と介護報酬のあり方検討副委員長を拝命しました．この機会を学会活動に有効活用し，平成30年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けて所属委員会と協働し在宅ケア推進のために活動していきたいと考えます．

福島　道子
徳島文理大学大学院看護学研究科

2025年問題や地域包括ケアシステムの構築が叫ばれ，在宅ケアも変革のときと感じています．チームとしての在宅ケアがますます重要になってくるに伴い，本学会の存在意義もより大きくなっていると思います．微力ではありますが，在宅ケアと本学会の発展のため，努力してまいりたいと思います．

本田　彰子
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

理事，および編集委員を担当させていただくことになりました．地域包括ケアの時代，多様な在宅ケアの場で求められる人材育成を基礎教育から現任・専門教育まで全体として充実させていくことが必要と考えられます．日本在宅ケア学会の活動が，広く今後の在宅ケアの下，支えとなるように，学会での役割を果たしていきたいと思います．

◆監事◆

金川　克子
特定非営利活動法人いしかわ在宅支援ねっと

27～30年度の監査を担当します金川です．在宅ケアを地域で進めるためには多くの職種の知恵が必要であり，根拠に基づいたケアを遂行するためには絶好の学会であり，学会員の役割・機能は今後ますます重要視されると思います．

村嶋　幸代
大分県立看護科学大学，東京大学名誉教授

地域包括ケアが重視されるようになり，在宅ケア学会の役割はますます重要になっています．多くの職種が集えるという強みを生かして発展できるように期待しています．

◆委員会新体制名簿◆

＜編集委員会＞

委員長：小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）

委　員：梶井　文子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科），加瀬　裕子（早稲田大学人間科学学術院），北川　公子（共立女子大学看護学部），下田　信明（杏林大学保健学部），杉澤　秀博（桜美林大学大学院老年学研究科），辻　彼南雄（水道橋東口クリニック），長江　弘子（千葉大学大学院看護学研究科），永田　智子（東京大学大学院医学系研究科），本田　彰子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科），横山　順一（日本体育大学社会福祉学研究室）

＜学会活動推進委員会＞

委員長：加瀬　裕子（早稲田大学人間科学学術院）

委　員：尾﨑　章子（東北大学大学院医学系研究科），梶井　文子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科），河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科），佐々木明子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科），下田　信明（杏林大学保健学部），諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科），長江　弘子（千葉大学大学院看護学研究科），永田　智子（東京大学大学院医学系研究科），山田　雅子（聖路加国際大学看護学部）

＜広報委員会＞

委員長：河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科）

委　員：尾﨑　章子（東北大学大学院医学系研究科），金谷　志子（大阪市立大学大学院看護学研究科），辻　彼南雄（水道橋東口クリニック）

＜倫理委員会＞

委員長：瀧澤　利行（茨城大学教育学部）

委　員：北川　公子（共立女子大学看護学部），小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科），杉澤　秀博（桜美林大学大学院老年学研究科），福島　道子（徳島文理大学大学院看護学研究科）

＜政策提言検討委員会＞

委員長：佐藤美穂子（公益財団法人日本訪問看護財団）

委　員：安藤眞知子（公益財団法人日本訪問看護財団），岡田　進一（大阪市立大学大学院生活科学研究科），長江　弘子（千葉大学大学院看護学研究科），福井小紀子（日本赤十字看護大学），山辺智子（公益財団法人日本訪問看護財団）

＜論文賞選考委員会＞

委員長：下田　信明（杏林大学保健学部）

委　員：亀井　智子（聖路加国際大学看護学部），小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科），辻　彼南雄（水道橋東口クリニック）

＜実践・研究助成委員会＞

委員長：岡田　進一（大阪市立大学大学院生活科学研究科）

委　員：小野　ミツ（九州大学大学院医学研究院保健学部門），佐々木明子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科），杉澤　秀博（桜美林大学大学院老年学研究科），森田久美子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）

＜生涯教育委員会＞

委員長：福島　道子（徳島文理大学大学院看護学研究科）

委　員：上野　まり（公益財団法人日本訪問看護財団），王　麗華（国際医療福祉大学），北川　公子（共立女子大学看護学部），辻　彼南雄（水道橋東口クリニック）

平成 27 年度公開講座だより

■　開催報告　■

平成 27 年度学会活動推進委員会　第 1 回公開講座

テーマ：在宅ケアにおける倫理的課題；在宅看護に焦点を当てて

日時：2015 年 7 月 18 日（土）11：00 ～ 11：50

会場：一橋大学一橋講堂

講師：麻原きよみ（聖路加国際大学看護学部）

司会：下田　信明（杏林大学保健学部）

公開講座のようす　　麻原きよみ氏

市民公開講座のようす　　澤登久雄氏

第 20 回日本在宅ケア学会学術集会　市民公開講座

テーマ：地域包括ケアの使い方，活かし方；大田区見守りネットワークを例に

日時：2015 年 7 月 18 日（土）15：10 ～ 16：40

会場：一橋大学一橋講堂

講師：澤登　久雄（大田区地域包括支援センター入新井，社会医療法人財団仁医会牧田総合病院医療福祉部・在宅医療部）

座長：尾﨑　章子（東北大学大学院医学系研究科）

■　公開講座のようす　■

2015 年 7 月 18 日，一橋大学一橋講堂にて開催された第 20 回学術集会に合わせ，平成 27 年度公開講座が開催されました．公開講座の目的は，会員・学術集会参加者および広く一般市民に，在宅ケアに関するさまざまな情報を提供することです．今回は，「在宅ケアにおける倫理的課題；在宅看護に焦点を当てて」をテーマに，聖路加国際大学の麻原きよみ先生に講演をしていただきました．

講演の中で私は，大きく 3 つのことを学ぶことができました．1 つ目は，臨床の場で思い悩んでいるときには多くが倫理的課題や倫理的ジレンマが生じているときと考えてよい，ということです．倫理的課題というとなにか大きな問題（たとえば，手術の危険性を説明せずに手術を行い患者さんが亡くなったとか，研究費を不正使用したとか，パワハラ・セクハラとか）のみを扱うのかと思っていましたが，そうではなく，日々のよくある問題（対象者さんと家族の意向が異なり板挟みになるとか，他職員と処置や対応に関して意見が異なるとか）こそが倫理的課題といえる，ということです．そうとらえることができると知っただけで，日々の問題を考える際，助けになるという気がしました．2 つ目は，在宅ケアにおける看護の仕事でもっとも大事なことのひとつは倫理的意思決定を支援することだ，ということです．これは看護だけではなく，もしかしたら在宅ケアにかかわる専門職に共通にいえることなのではないかと思いました．3 つ目は，倫理的課題に対する対応は正解がある，というものではないので，かかわる皆で協力し最善をつくすということが大事である，ということです．いまの私は臨床に携わることはなくなっていますが，これら 3 つのことは，もし今後，在宅ケアやほかの臨床に携わることがあれば，非常に役に立つのではないかと感じることができました．講師の麻原きよみ先生，また第 20 回学術集会長の亀井智子先生をはじめ運営スタッフのみなさま，本当にありがとうございました．

平成 27 年度日本在宅ケア学会論文賞受賞に寄せて
―優秀論文賞受賞者（1 名），奨励論文賞受賞者（2 名）より―

◆平成 27 年度日本在宅ケア学会優秀論文賞

清水由美子
東京慈恵会医科大学医学部看護学科

■受賞論文　原著

高齢透析患者の食事に関するセルフケアに対する家族支援の影響；患者の認知と家族の認知による違い

清水由美子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）
杉澤　秀博（桜美林大学大学院老年学研究科）

［日本在宅ケア学会誌 Vol.18 No.1 掲載］

このたびは，大変名誉な賞を賜り誠にありがとうございました．調査にご協力いただいた方々や論文執筆にあたりご指導，ご助言いただいた多くのみなさま，ていねいなコメントをいただいた査読者の先生方に，この場をお借りしてお礼申し上げます．本論文では，高齢の透析患者が増えるなかで今後さらに重要となるセルフケアと家族支援をテーマとしました．今回の受賞を励みに，これからも研究に取り組んでいきたいと思います．ありがとうございました．

◆平成 27 年度日本在宅ケア学会奨励論文賞

仁科　祐子
鳥取大学医学部保健学科

■受賞論文　原著

訪問看護師における職場継続意志の関連要因；仕事満足度および対人関係に焦点をあてた検討

仁科　祐子（鳥取大学医学部保健学科）
谷垣　静子（岡山大学大学院保健学研究科）

［日本在宅ケア学会誌 Vol.18 No.2 掲載］

このたびは奨励論文賞をいただき，驚きと同時にたいへん光栄に存じます．“奨励”とは，今後の研究への期待が込められている言葉であり，奨励賞を真摯に受けとめ，今後の研究へ向かう姿勢を改め直す機会をいただいたと思っております．今回の論文投稿にあたっては，研究協力者の訪問看護師のみなさまに加え，本当に多くの先輩方からご指導いただきました．とくに肝に銘じたことは，実践に役立つ研究をしなければ意味がないということです．これはひいては研究倫理につながることだと思います．今後は実践を見据える姿勢をよりいっそう大切にしていきたいと思っています．引き続きご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます．

片山　陽子
香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

■受賞論文　研究

がんを含む慢性疾患 3 類型別にみた訪問看護師の予後予測の的中率と症状との関連

片山　陽子（香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科）
長江　弘子（千葉大学大学院看護学研究科）
齋藤　信也（岡山大学大学院保健学研究科）
酒井　昌子（聖隷クリストファー大学看護学部）

［日本在宅ケア学会誌 Vol.17 No.2 掲載］

このたびは奨励論文賞を賜り，たいへん光栄に存じます．この場をお借りして，本研究にご協力いただきましたみなさまへ心よりお礼を申し上げます．

本研究は共著者である長江先生を中心に在宅看護学を専門とする教員等で研究チームを作り，1 人ひとりが最後までその人らしく生きることを支えるための訪問看護師の実践知を明らかにしたいと取り組んでいる研究の成果のひとつです．訪問看護師が少し先を見越して適切なタイミングで介入できることが，疾病をもちながらもその人らしく生きていくことへの支援につながると考え，今後も臨床現場で頑張っているみなさまとの協働を基盤に研究チームでの議論を楽しみながら研究活動を重ねていきたいと思います．関係者のみなさまに引き続きご指導をお願いするとともに深謝申し上げます．

各種ご案内

ニュースメール配信用 メールアドレス登録のお願い

本学会では，会員のみなさまへ迅速に情報提供を行うために，「ニュースメール」（不定期／年数回）を配信しております．現在のニュースレターは平成28年度よりメールのみで配信予定のため，未登録の方は会員専用サイトにて，登録情報入力フォームよりご登録いただくか，会員登録事項変更届をご提出ください．

第21回日本在宅ケア学会学術集会 公開講座のお知らせ

■市民公開講座■

2016年7月16日（土）17：10～18：20

※参加費無料

テーマ：いのちのおわりに寄り添って（仮題）

座　長：蘆野　吉和（北斗病院　地域包括ケア推進センターセンター長）

講　師：徳永　　進（野の花診療所院長）

■市民公開シンポジウム■

2016年7月17日（日）15：30～17：00

※参加費無料

テーマ：自分らしく旅立つために

講　師：上野千鶴子（社会学者，東京大学名誉教授，認定NPOウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長）
秋山　正子（株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長，暮らしの保健室室長）
辻　彼南雄（水道橋東口クリニック院長，一般社団法人ライフケアシステム代表理事）

司　会：志藤　洋子（国際長寿センター日本事務局長）

第21回日本在宅ケア学会学術集会のご案内
（第18回日本在宅医学会大会と合同開催）

● **テ　ー　マ**：在宅医療とケアの原点
● **学術集会長**：辻　彼南雄（水道橋東口クリニック）
● **会　　期**：2016年7月16日（土），17日（日）
● **会　　場**：東京ビッグサイトTFTビル　〒135-0063　東京都江東区有明3-6-11
りんかい線「国際展示場駅」徒歩約5分，ゆりかもめ「国際展示場正門駅」徒歩約1分

● **プログラム（予定）**

【メインシンポジウム】

これからの訪問看護と在宅ケアの未来
　座　長：秋山　正子，山本　則子
　演　者：宇都宮宏子，中村　順子，秋山　正子，佐藤美穂子（指定発言）

地域包括ケア　2035年までになすべきこと
　座　長：太田　秀樹，田中　　滋
　演　者：島崎　謙治，袖井　孝子，新田　國夫
　共　催：全国在宅療養支援診療所連絡会

チームアプローチ新時代
　座　長：亀井　智子，加瀬　裕子
　演　者：Mariko Abe Foulk，大嶋　伸雄，Els-marie Anbecken，辻　彼南雄（指定発言）
　共　催：NPO法人高齢者を支える学際的チームアプローチ推進ネットワーク（ミシガンネット）

在宅医療の原点；パイオニアから受け継ぐもの
　座　長：平原佐斗司，和田　忠志
　演　者：辻　彼南雄，和田　忠志，鈴木　　央，辻　　哲夫

【日本在宅医学会大会　大会長講演】

在宅医療の原点
　座　長：前田　憲志　　演　者：平原佐斗司

【日本在宅ケア学会学術集会　学術集会長講演】

患者中心の医療とチームアプローチ
　座　長：亀井　智子　　演　者：辻　彼南雄

【特別講演】

訪問看護の原点
　座　長：亀井　智子　　演　者：佐藤美穂子

病院の世紀から地域包括ケアの世紀へ；社会の変容に医療はどう対応すべきか
　座　長：太田　秀樹　　演　者：猪飼　周平

人権としての緩和ケア；世界の緩和ケア潮流と我が国の緩和ケアの方向性
　座　長：川越　正平　　演　者：加藤　恒夫

【指定講演；4 講演】
【シンポジウム；20 講演】
【特別企画；2 企画】
【教育講演；10 講演】
【在宅ジェネラリスト養成講座；12 講座】
【委員会企画；5 企画】
【職種別ワークショップ；3 本】
【優秀演題，優秀論文発表】
【モーニングセミナー；4 企画】
【ポスター展示，発表】
【日本在宅ケア学会　社員総会】

※タイムスケジュール等詳細については大会ホームページをご覧ください．
　http://www.procomu.jp/zaitaku-joint2016/

◆参加費◆

参加区分		事前申込	当日申込
医師・歯科医師・企業	会　員	14,000 円	17,000 円
	非会員	15,000	18,000
コメディカル・一般	会　員	6,000	8,000
	非会員	7,000	9,000
介護専門職（介護業務もしくは介護支援業務に従事している方）	会　員	6,000	8,000
	非会員	7,000	9,000
学生（大学院生は除く）		2,000	3,000

※事前参加申込締切：2016 年 6 月 10 日（金）

◆お問い合わせ◆

第 21 回日本在宅ケア学会学術集会事務局
　〒 101−0061　東京都千代田区三崎町 1−3−12　水道橋ビル 9F　水道橋東口クリニック
　TEL：03−3292−1270　E-mail：info@suidobashi-e-cl.jp
第 21 回日本在宅ケア学会学術集会運営事務局
　〒 135−0063　東京都江東区有明 3−6−11　TFT ビル東館 9 階　株式会社プロコムインターナショナル
　TEL：03−5520−8821　FAX：03−5520−8820　E-mail：zaitaku-joint@procomu.jp